

地域リハビリテーション活動支援事業を活用した地域課題の解決について

福岡県久留米市では、高齢者が主体的かつ継続的に地域での介護予防活動に取り組むために、住民主体の通いの場における活動の定着を支援している。一般介護予防事業を活用した地域課題の解決について報告する。

① 居場所・サロンの創出

① 居場所・サロンの創出

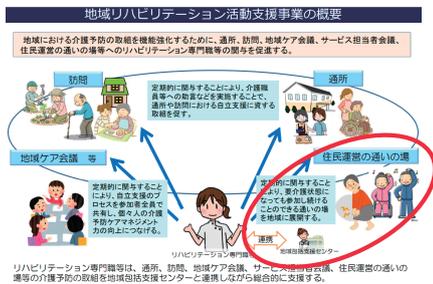
地域リハビリテーション活動支援事業を活用した地域課題の解決について 特定非営利活動法人くめ地域支援センター 長野久雄（作業療法士）

1. 背景

- 現状：福岡県久留米市の人口304,703人、高齢者数81,595人（2019年4月）
高齢化率26.8%（日常生活圏域11か所で22.7%～32.5%）⇒29.3%（2025年見込み）
- 課題：①住民主体の通いの場が不足している ②住民が気軽に交流できる場が不足している ③身近な地域での運動の場が不足している（「地域ケア会議専門部会」資料より）
- 施策：高齢者が元気なうちから、主体的かつ継続的に地域の介護予防活動に取り組む

2. 目的

地域リハビリテーション活動支援事業を活用することで、地域の通いの場や参加者数が増え、住民の主体的かつ継続的な介護予防活動を支援する。



久留米市における地域リハビリテーション活動支援事業

- 【いつ】半年間で5～10回（2017年4月から開始）
- 【どこで】団体の活動場所（コミュニティセンターなど）
- 【誰に】地域で介護予防に取り組む意欲のある団体（老人クラブ、サロン、自主グループなど）
- 【誰が】理学療法士または作業療法士（講師）
- 【どのように】一定期間派遣し、自主的に運動や体力測定ができるように助言・指導を行う（1回60分以上）
- 【どうなる】地域における**主体的かつ継続的**な介護予防の取り組みができる

3. 方法



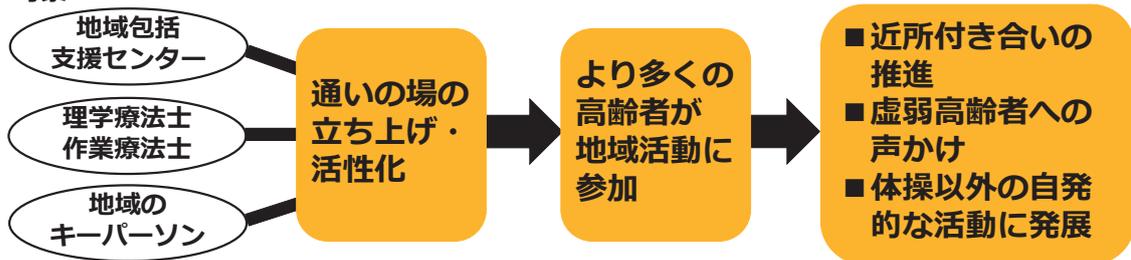
4. 結果

- 2017年からの2年間で、26団体に講師が介入した
- 介入した26団体中、11団体が新たに立ち上がった
- 介入した26団体中、16団体が週1回、10団体が月2回の活動を継続している（2019年3月現在）
- 介入時の延べ参加者数は、4,105名であった（2年間）



知り合いができたので、集まるのを楽しみにしています

5. 考察



6. まとめ

『介護予防を手段とした地域づくり』を地域住民と専門職が協働して行うことで、地域課題の解決につながる。